

令和6年度 磐田市立竜洋西小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察 ※改善策	学校運営協議会委員から
みんなが安心して学ぶ子	子ども一人ひとりが自分事として学ぶための授業改善をする。 学び合う学習集団づくりをする。	・児童が、対話を通して学びを深め、自分の言葉で学びを振り返っているか。	B	○「児童が、対話の中で学びを深め、自分の言葉で学びを振り返る」ために、対話を引き出す手立てを工夫した。認知的葛藤が生じる発問や資料提示をすることで、児童の追究意欲が高まった。しかし、他者の考えを「聴く」という課題が見られるという点で教職員評価の割合がやや低い結果となった。 ※児童が学習対象を自分事として捉え、他者の考えにもより耳を傾けようとするための手立てを講じていく必要がある。児童が「聴き合う」ことで学びを深めることができるよう、校内研修を中心に、教職員の授業力を磨いていく時間と場をこれまで以上にいく必要がある。	・授業を進める教師が教室全体を把握しているからこそ、児童への細やかな気配りや支援をすることができている。また、児童が自分の考えを伝えようとする環境づくり(教師の声掛け、話し合いの形態の工夫など)ができている。 一方で、より児童が安心して発言できる教師の構えは必要ではないか。「間違ってもよいのだ」と多くの児童が思うことのできる安心感ある学級経営に支えられた授業を目指していくことが大切だと感じる。
大切にもすすめる友達も	みんなで「にしのこのやくそく」を考え守れるように指導と評価を行っている。 子ども同士が関わり合いながら考え、実行できる場を工夫する。	・児童が、にしのこのやくそくを考え、みんなのために行動しているか。	A	○昨年度に引き続き、本年度も自分たちで学校生活を安心・安全に生活できるように、どのような約束が自分たちに必要か考えてきた。1学期には学級、2学期には学年、3学期には学校全体というように3段階で「にしのこのやくそく」をつくり、学校の皆で行動できるように取り組んできた。常に意識しながら学校生活を送ることができた。 ※「にしのこのやくそく」つくりのように、児童が自分たちの生活を自分たちの手でよりよく創っていくことのできる場をより多く設けていく。 ※年度初めに教職員で児童について共通理解する場「にしのこの会」を設定したり、タイムリーなケース会議を行ったりしながら、児童について発達支持的生徒指導を意識した取り組みを継続していく。	・スポーツフェスティバルに向けて最上級生が学校全体の士気向上のために率先して掲示物を作成したという話を聞き、嬉しく思った。今後も、みんなのために行動できる児童がさらに増えていくことを期待している。
友達と元気に生活する子	みんなで主体的に取り組む学校行事・授業、外遊びを子どもと工夫する。 健康の日や栄養指導などを通して、子ども自らの健康に関心をもつ指導、見届けを行う。	・児童が、友達と仲良く関わり合いながら、楽しんで運動や外遊びをしているか。	A	○ロング昼休みに友達と思いきり体を動かしながら遊ぶ児童の姿が多く見られた。 ○日々の保健指導により生活習慣が心と体に及ぼす影響について、栄養指導により食が心身の発達に好影響を与えることを理解できるようになってきた。ただ、生活習慣が身に付いていない児童も多く、これまでに以上に保護者との連携が必要である。 ※日々の保健指導、学校保健委員会を通して、家庭におけるTVやスマホ、タブレット端末などのスクリーンタイムが長くならないよう、情報端末との付き合い方について保護者と共に考えていく。 ※本年度に引き続き、各学級への給食訪問を通して食の大切さについて学ぶ場を設ける。	・昼休みの遊びの中で上級生が下級生を仲間に入れて遊んでいる姿がほほ笑ましかった。そのような自然と異学年が遊ぶ姿が見られることはとてもよいことだと思う。そのような校風や児童の気質を生かした取り組みを今後もつづけていけるとよい。
深い子ども理解	教師は子どものことを理解して指導にあたる。	・教師は、子どものことを理解して指導にあたっているか。	B	○学校の教育活動に理解を示す保護者が多く、協力的な関係を築くことができている。 ※より保護者と連携しながら教育活動を進めていきたい。そのために、校内研修や学年会を充実させ、職員育成を図る。	・社会全体だけでなく、本校においても不登校またはその傾向にある児童が一定数見られる。また、配慮が必要な児童も年々多くなってきている。そのような中、児童の居場所づくりにより一層の力を注いでほしいと感じている。
	教師は子どもや保護者と適切に面談、連絡、相談を行う。	・教師は、子どもの姿から、子どもや保護者と適切に面談、連絡、相談を行っているか。	B	○生徒指導上の問題行動・不登校・別室登校・いじめ等で困っている際は、可能な限り迅速にケース会議を行ったり子供や保護者に働きかけたりした。 ※児童の表情や言動から感情の機微を読み取ったり、生活アンケートを生かしたりしながら、児童理解に努めてきた。ただ、多様化する表れ、考えに対して苦慮するケースも発生し、対応が遅れたり子供や保護者のニーズに応じきれないこともある。今後も、子供や保護者と相談を重ねながらよりよい対応を模索していく必要がある。	・いじめが起こらないように、積極的な生徒指導を行っていることが分かった。また、「いじめは絶対にゆるさない」「相手がいやなきもちになったらそれはもういじめ」というように教職員が共通理解をしていた。問題行動やいじめには、未然防止、早期発見、早期解決に向けて、教職員が連携して取り組んでいることが分かった。 ・「なんでも相談日」の設定はもちろんだが、それ以外の時間にも保護者との連絡手段もしっかりあり、相談しやすい環境が整っていると感じる。
安心全員の	教職員はいじめや問題行動があったとき、適切に対応する。	・教職員は、いじめや問題行動があったとき、適切に対応しているか。	A	○すべての事案に対して、「いじめは起きている」という前提の対応を心掛けている。丁寧な連絡対応を意識して行ったため保護者からの一定の信頼を得ているが、表面化された事案にだけ目を向けることなく、児童の様子を丁寧に見取っていく必要がある。 ※今年度は特に、複数対応を基本に据え、多くの職員が事案の関係者となり運動して動くことを意識した。また、事後の継続的な支援の充実を図り、より丁寧な対応を取ることができた。児童も保護者も100%評価になるように、未然防止のためにどのような学級・学年・学校経営すべきかについて見直していく必要がある。次年度は学年会を中心とする場で、複数体制によるより深い児童理解と早期発見・対応ができるようにしていく。	・不登校、いじめ、別室登校等の困り感を抱えている児童に対して、明日に持ち越さずに、迅速かつ慎重な解決に向けて対応している。教師だけで解決が難しい事案については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関と連携しながらよりよい方法を模索することができる点が、多様な子供に対して多様な見方・考え方を持ち寄り対応することにつながる。そのような体制を構築している点が心強い。 ・学校には、「自分の考えを言える子供、言いにくいを抱える子供」「自分を出せる子供、出せない子供」など、多様な子供が集う。その一人ひとりに寄り添うためには、教師の子供を見取る眼(洞察力)がより必要になってくるだろうと感じる。
地域と学校も	学校は、学校教育目標「えがおかがやくにしのこ」を実現するための教育活動や、日々推進する。	・学校は、学校教育目標「えがおかがやくにしのこ」を実現するために、日々の教育活動を行っているか。	A	○学校教育目標「えがおかがやくにしのこ」達成に向け「気持ちよく行動」「みんなとつくり出すにしのこスマイル」を合い言葉に、日々の教育活動を行ってきた。このことを踏まえ、日常の指導の場面、行事の振り返りの場面で児童と共通理解を図ってきた。その結果、児童にも保護者にもその意識が浸透した結果、一定の評価を得ることができていると考える。また、学校運営協議会、CSC、保護者ボランティア、地域の方々などの協力を得ながら教育活動を行うことができている点も、学校教育目標を具現する上で非常に助かっている。 ※学校運営協議会委員やCSCとの連携により充実した教育活動を行えた実績を踏まえ、来年度も、より学校と地域が連携できる取組を教育計画に位置付けるようにしていく。	・教師に余裕がないと子供に向き合うことはできないのではないかと。教師の勤務状況、教育状況を知らなければ知るほど、今の学校現場の実情を変革させる必要を感じる。例えば、朝の昇降口の開錠時刻を8時へと変更する案には賛成する。地域への連絡調整は必要だが、子供と向き合うことや授業づくりをすることなど、教師の本質的な役割を果たすことができるよう、協力していきたい。 ・今まで本校の課題とされてきた部分(社会的に問題化している子供の生きづらさ、子供の生活習慣を家庭で身に付けること、学校に無理難題なニーズが求められることなど)を解決していくために、学校・地域・保護者がより連携して一歩一歩積み重ねていくことが今後大切だと感じている。 ・保護者や学校運営協議会委員が回答しやすいアンケート項目にするとうい。
学校関係者評価を受けてのまとめ					
<p>学校運営協議会であがってきた本校の課題として、①授業改善、②学校と地域とが連携した上での学校(教師)の働き方改革の2点があげられた。①と②は個別の課題ではなく、連動している。授業づくり(教材研究や校内研修)に注目できる時間をどのように捻出していくかという視点で、日課表や年間計画などを見直ししていく。また、その際に地域や保護者の理解と協力を得ていく必要がある。その際に、学校運営協議会のエンパワーを発揮していく必要がある。</p>					